

令和4年度職能情報部調査報告

(公社)大分県理学療法士協会の
活動における会員ニーズ調査

職能情報部

【はじめに】

- 会員数 **1,765名** （令和4年7月時点）
- 施設数 **280以上**
- 職域は多岐に渡り、協会事業も年々増加傾向
- 県士会事業は、各部の案をもとに執行部会で決定、理事会で承認されている

【目的】

現状：新型コロナウイルス感染症等の影響により、事業によっては参加者が少ない、もしくは参加者が固定している

目的：より多くの会員に事業に参加してもらうために会員のニーズを調査し、その結果を次年度の事業計画の検討材料にすること

【方法】

対象：県士会全会員

期間：令和4年8月初旬～8月20日

アナウンス方法：①会員所属施設宛てに協力依頼公文書を郵送
②県士会ホームページおよびメルマガを活用

回答方法：Webアンケート機能を用い、選択制

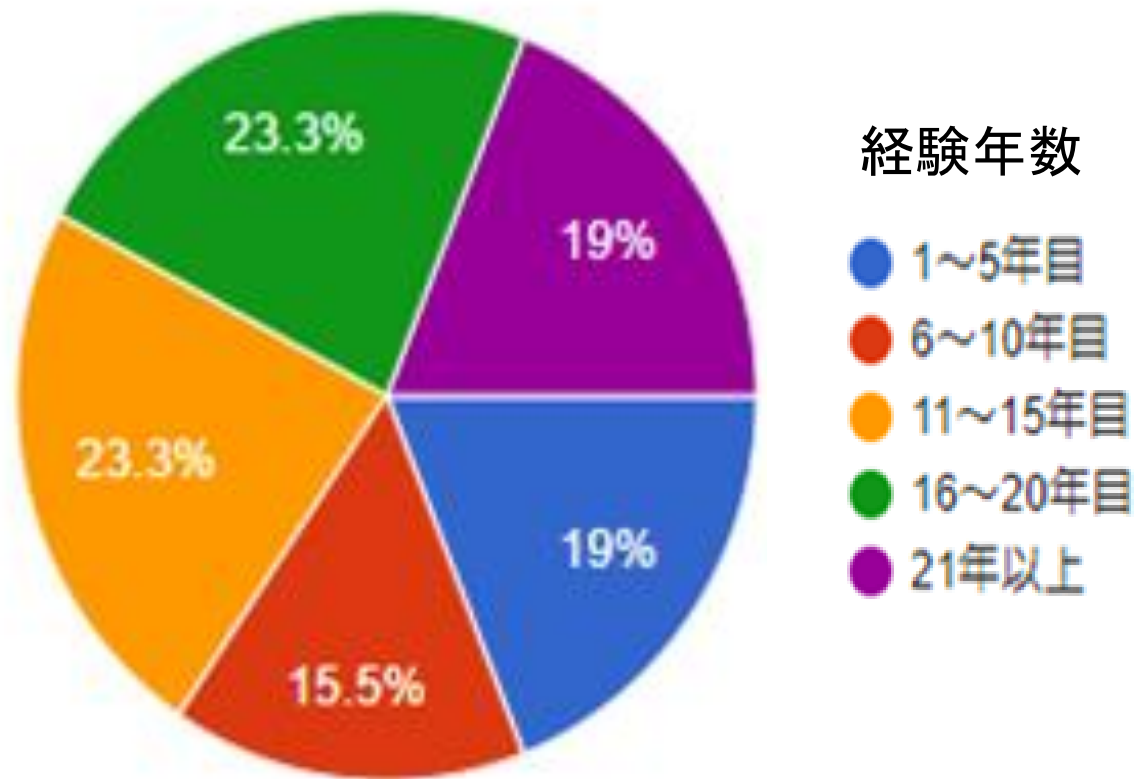
基本属性：経験年数5年ごと

アンケート内容

- ①公益事業目的について
- ②福利厚生事業について
- ③ブロック事業について
- ④職能について
- ⑤研修会について
- ⑥県士会の活動について

【結果】

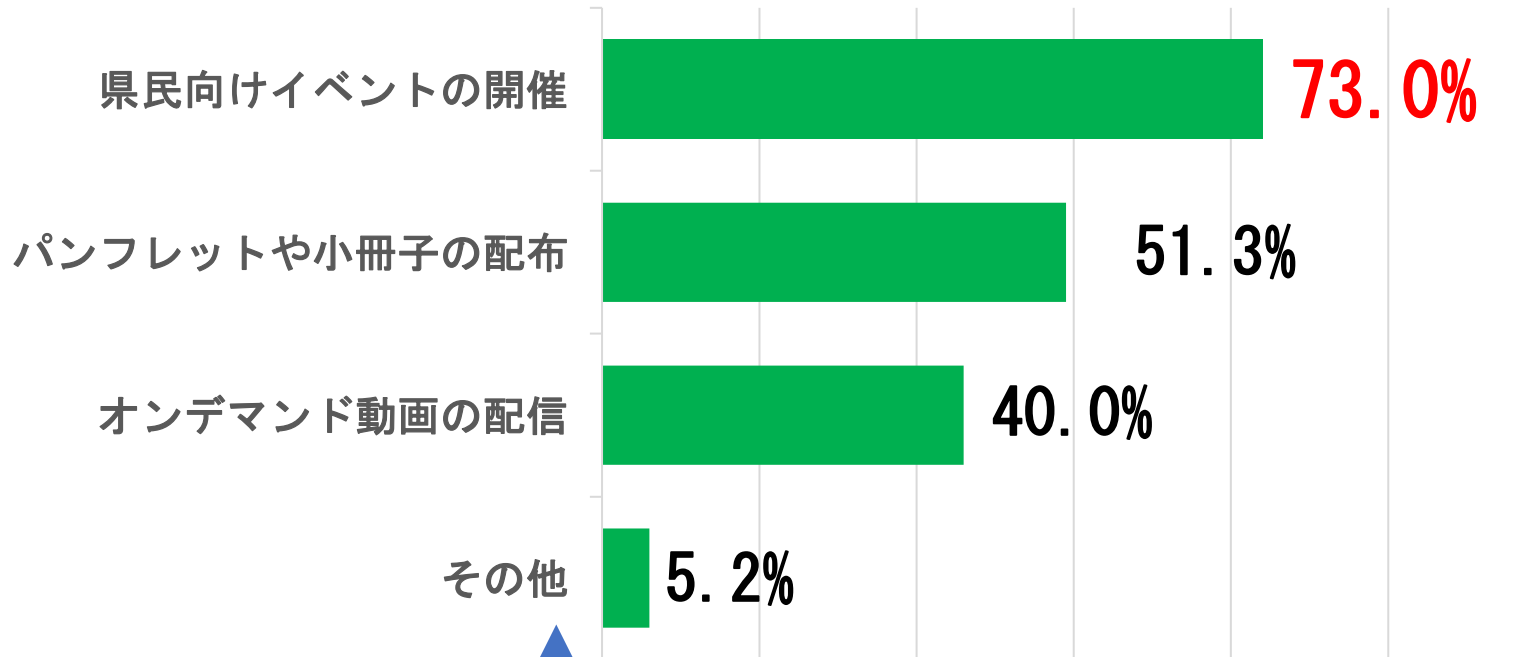
回答数 117件
回答率 6.6%



各属性とも
バランスよく
回答を得られた

公益目的事業について①

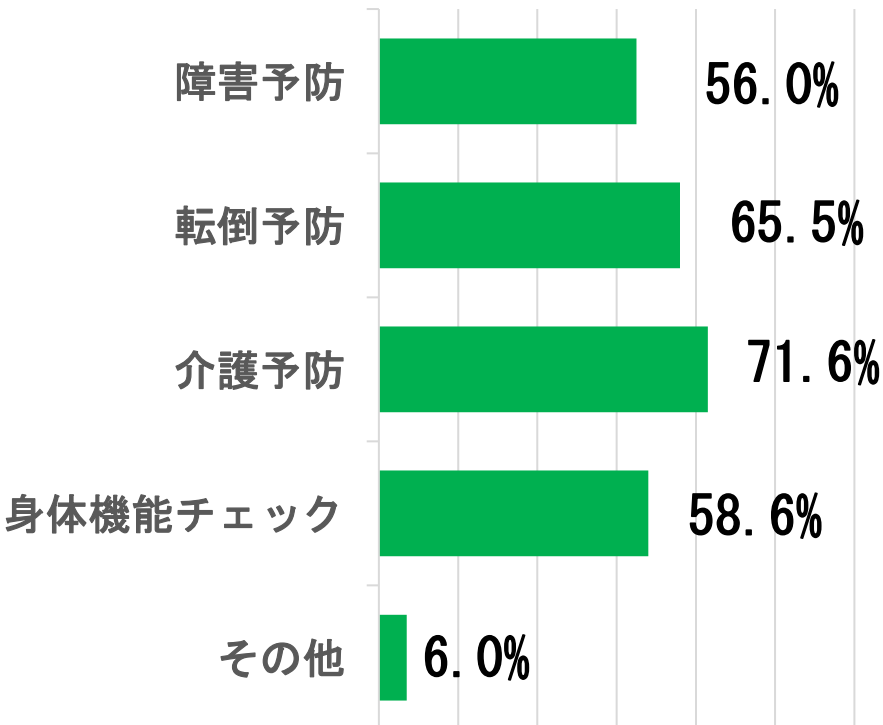
A-1：より多くの県民に貢献する為に、どのような活動をするよいいと思いますか？
(複数回答可)



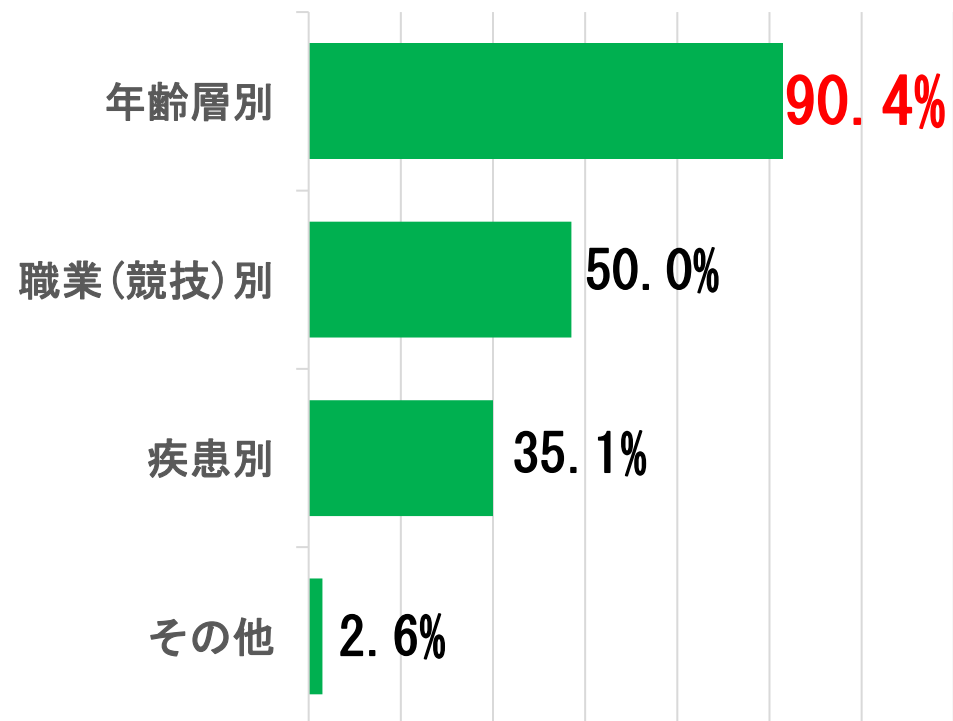
SNS、番組配信、メディア出演
公益社団法人に対する理解度は？

公益目的事業について②

A-2：どのようなテーマで行うとよいと思いますか？（複数回答可）

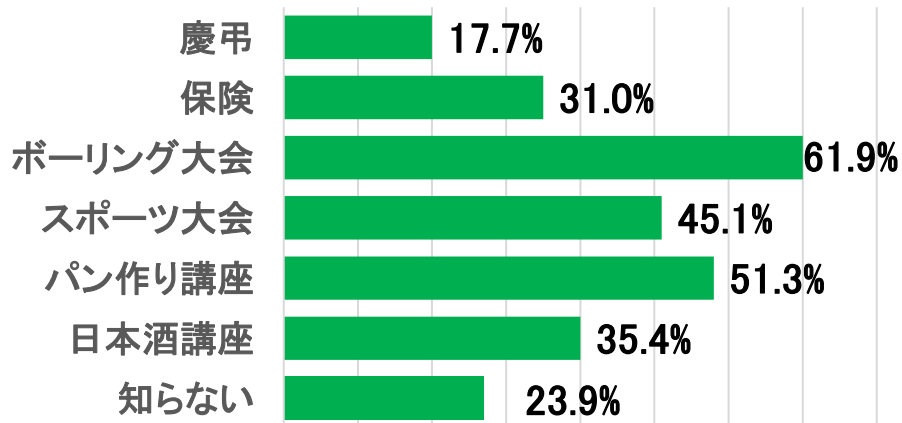


A-3：対象者はどのように設定すればよいと思いますか？（複数回答可）

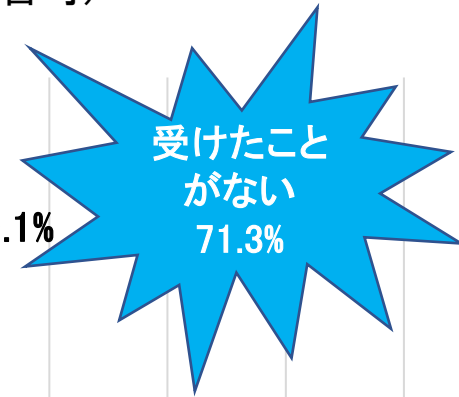
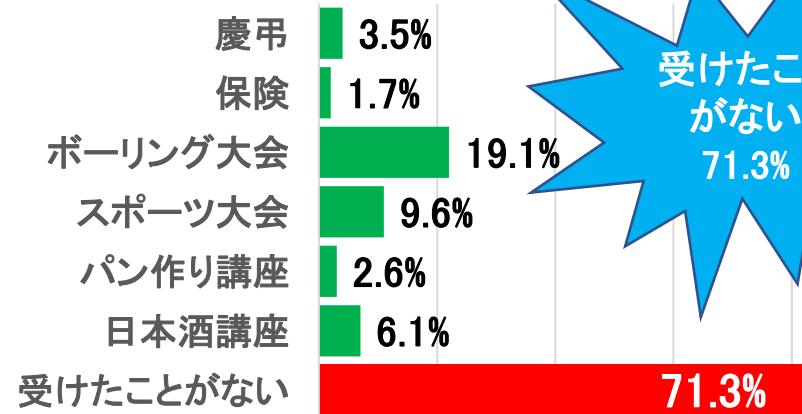


福利厚生事業について

B-1: 福利厚生事業でご存じの事業を教えてください。(複数回答可)



B-2: 協会のどのような福利厚生を受けたことがありますか?(複数回答可)

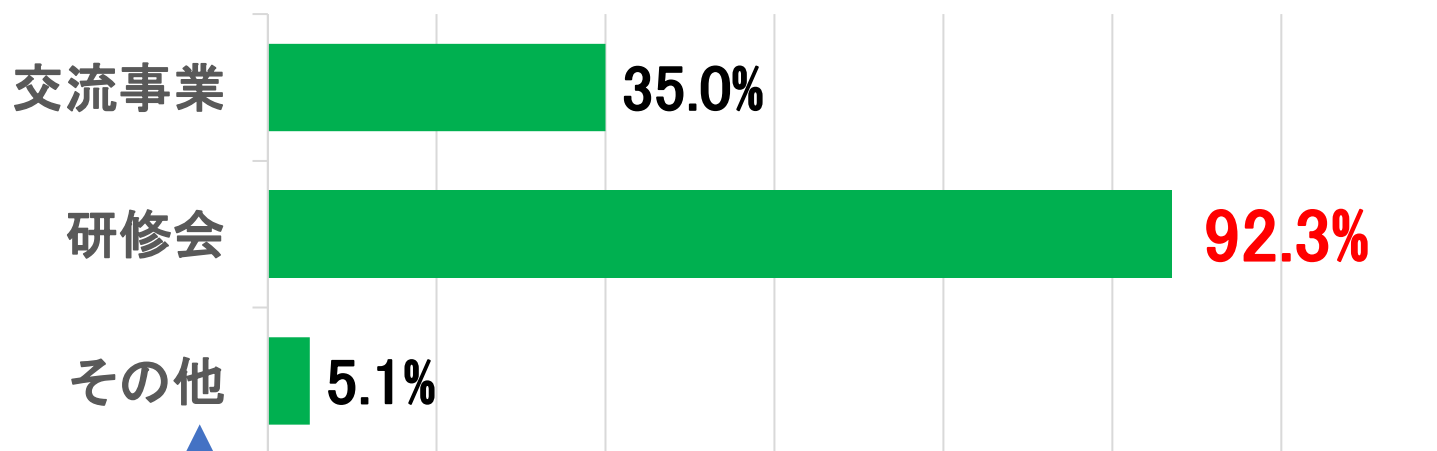


B-3 どのような福利厚生があると活用できると思いますか。

育児休業支援、学会やセミナー時の託児所
割引(レジャー施設・テーマパーク・飲食店・宿泊・旅行・保険)、クーポン
飲み会、食事会、スポーツ大会
経済的学習支援、投資やマナー講座など

ブロック事業について

C-1: ブロック事業において今後期待することは何ですか？(複数回答可)

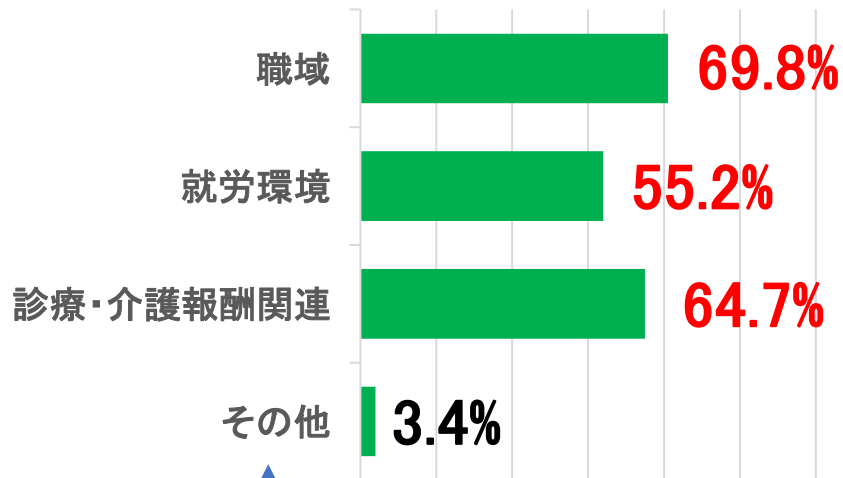


↑

ブロックの在り方、協会員への協力と参加の促し、
役員負担の軽減、研修会(オンデマンド・ポイント付加)
職場見学、スタッフ交換研修など

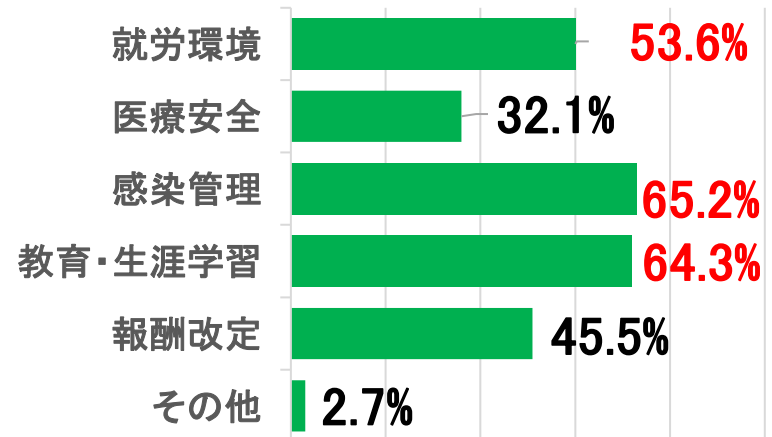
職能について

D-1: どのような職能情報を知りたいでしょうか？
(複数回答可)



医療福祉・介護以外の一般企業情報
労働環境の実態(休暇・給与・時間外)
キャリア形成について(収入アップ)
地域で活躍している方の情報(PT以外)

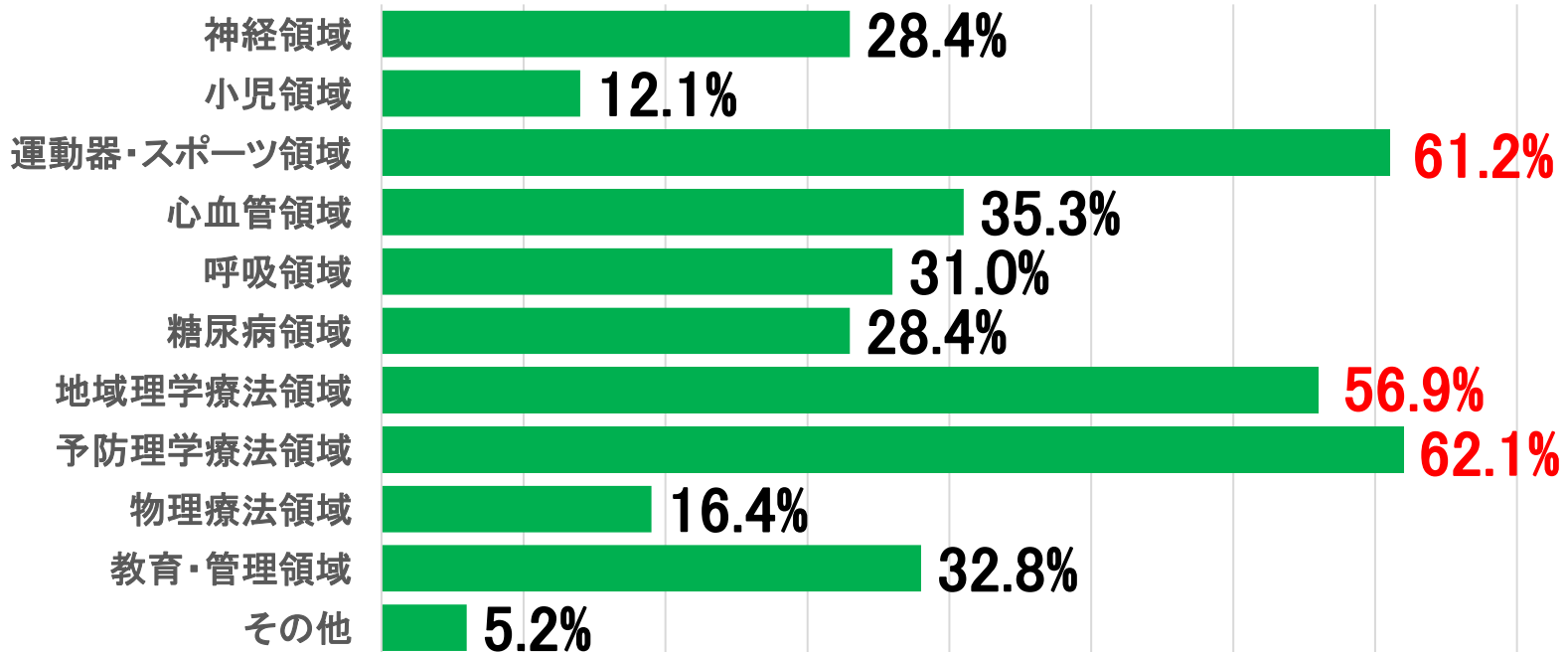
D-2: 管理運営について話題となっていることは
ありますか？(複数回答可)



今後の医療情勢
機能評価
メンタルヘルス

研修会について

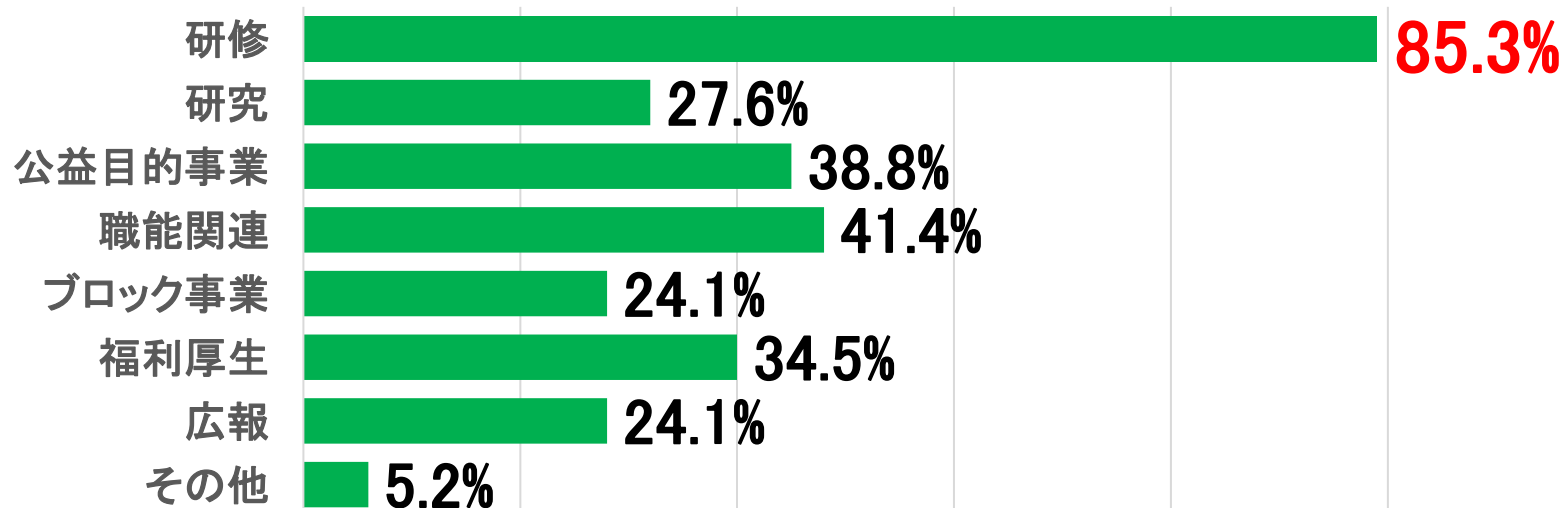
E-1: 参加したいと思う研修会のテーマ(領域)を教えてください。(複数回答可)



医療安全および感染対策教育、
ウィメンズヘルス・メンズヘルス、がん、終末期の研修、産後ケア、福祉用具など

大分県理学療法士協会の活動について

F-1: 大分県理学療法士協会に期待する事業はどれですか？(複数回答可)



【具体的に期待すること】

オンライン、会員の参加を促す手法検討、アナウンス方法、申し込み簡略、
介護予防事業派遣時の有償化、施設間交流、SNS(宣伝)、地域活性化、
共同研究による理学療法の啓発、収益事業による認知度アップ、
会員交流事業、実技研修など

大分県理学療法士協会への意見等

○県士会に入る魅力やメリットが必要(強制できない)

- ・お金を払うだけのメリットをどれだけ感じられるか
- ・専門、認定PTが給与反映されるなど明確なメリット
- ・若いセラピストが自ら入りたいと思えるメリット

○オンラインの活用

- ・遠方から参加できる
- ・育児しながら参加できる

○若い世代のニーズをくみ取る

○協会活動参加への公平性

- ・ボランティアみたいなもので負担になっている方もいるのではないか



【考察】

- ・会員の興味のあることや協会に対しての期待や要望、課題が明確になった

- ・医療安全や感染対策等、理学療法の技術以外の知識も必要としていることが分かった

○反省点

- ・広報が不十分であったこと、アンケート内容を事前に各部局で検討できなかった

【まとめ】

- ・回答率は低かったが今回の結果は、貴重な意見として次年度事業計画に役立ててもらうため、執行部で結果を共有した

- ・今回の反省を踏まえ、基本属性を経験年数のみではなく、病期別なども含めて検討し、各部局の事業計画に、より多くの会員の意見が反映できるよう取り組んでいきたい